

事業所自己評価シート

令和6年度(2024年)

*保護者(18/21 回収率 85%)・職員(5/5 回収率 100%)

保護者による評価

環境面

環境・体制整備共に不満や要望はなく、適切に整備や配慮がされているとの評価を頂いた。

児童への支援内容

不満や要望などはなく、適切な支援計画により、工夫された支援が提供されているとの評価を頂いた。特に支援計画に関しては、ニーズの聞き取りや提案内容の説明が丁寧に行われているとの評価があった。また、夏休み期間に開催するイベントでは、家族同士の交流の場を提供し、好評をいただいた。なお、地域や他事業所との交流がされていることは認知していたが、活動の内容は分からないと評価があったので、広報誌やホームページなど複数の報告方法を検討する。

保護者への説明責任・信頼関係

不満や要望などなかった。引き続き、日々の様子は送迎時や連絡帳などを利用してお伝えしていく。また、事業所全般に関する周知事項は書面活用して、分かりやすい説明を心掛けていく。

活動報告、法人主催勉強会や行政情報なども「まちこみメール」を活用して、ご家族に適時に情報を提供し、引き続き信頼関係の構築に努めていく。

非常対応

避難訓練等の実施については、概ねご理解を頂いた。

満足度

概ね満足した評価となったが、利用日を増やしたいとの要望があった。

職員による自己評価

環境面

環境設備に関しては、今年度の更新はなかったが、引き続き整えていく。共有部分の消毒や標準予防策の感染対策を実施した。なお、施設内感染等の発生はなかった。セラピストによる職員向けの呼吸介助勉強会を実施し、知識技術等向上に努めた。

児童への支援内容

今年度より5領域の支援内容に沿って統一した支援を行っている。他事業所、近隣住民や機関との交流を図った。また、社会体験の機会としては、近隣の商業施設や飲食店舗への外出活動を実施した。

関係機関との連携

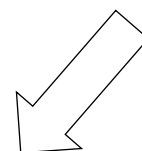
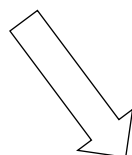
相談支援事業所の担当者会議への参加や学校と情報共有することで連携を図った。事業所からの情報発信強化のため、ホームページの再整備を進めた。

保護者への説明責任・信頼関係

日頃から送迎時にご様子をお伝えしている。必要に応じて、連絡帳や電話連絡等で状況や課題について情報共有を行い、ご家族と共通理解を図った。

非常対応

避難訓練や防犯訓練を学校休業期間中に全曜日実施した。ご家族の訓練見学、警察や消防の職員立会訓練を実施し、事業所内の避難行動に対する評価を受けた。また、災害発生時の電源確保や備蓄物品等を再整備した。大規模災害の発生に備え、災害発生時の事業所の被災状況報告やご家族等との連絡方法の周知、想定訓練を行う必要がある。



事業所内での分析

【共通点】

- ・支援内容や情報共有については、評価を頂いた。
- ・事業所における災害等緊急時の想定訓練は継続的に実施した。大規模災害等発生後の電源確保や備蓄物品については再整備が完了した。また、災害発生時の情報の提供・共有の強化として、災害時の伝言ダイヤル活用の試行をした。今後は、災害の状況に応じた具体的な対応をどのようにしていか、ご家族と事業所で丁寧に検討する必要がある。

【相違点】

- ・事業所外での活動などが、連絡帳の文面のみでは活動内容が伝わりにくい事があった。

分析・検討の結果

事業所の強み

近隣地域への外出活動も再開し、様々な活動を通して経験を積むことができる。同法人所属のセラピスト（PT・OT・ST）が活動の支援に入るため、多角的に状態を評価し、共有する事が可能である。また、同事業所内に生活介護サービス部門があり、成人利用者と交流の機会があるため、高校卒業後の生活をイメージしやすい。

事業所の改善点

大規模災害等発生時の対応等については、ご家族との共通認識が必要である。次年度は災害発生後の事業所の動きなどをご家族に知って頂くことで、より安心していただくと考えている。また、毎日の連絡帳の記載内容だけでは伝えきれない活動の様子などを広報誌や他媒体を活用して、事業所の支援内容をより見えやすくしていく。

事業所の改善への取り組み

- ・大規模災害等発生時の対応については、引き続き緊急時対策の取り組みを行う。また、大規模災害発生後のご家族との連絡方法など具体的な内容を共有したい。
- ・活動内容がわかるように、年4回発行の広報誌に活動報告を掲載する。また、併せて「まちこみ」やホームページを利用し、ご家族に活動内容がより伝わるよう努める。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・事業所の災害時対応については実地・連絡訓練を重ね整備出来つつある。今後連絡系統を共有していく。
- ・支援については、感染症対応も緩和され地域交流も再開している。今後さらに様々な体験の機会を増やしていきたいと考えている。

事業所名 たちいずみのりずむ

担当 たちいずみの課 課長 町田 尚琢